市民談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていることをお書きになって気軽にお寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇―一二　白根市大字白根一二三五　白根市役所企画財政課広報広聴係です。

自己教育。それは自分自身を反省すること

金子睦朗さん（桜町二・神官・33歳）

自己教育。それは徹底した自分への反省です。今日一日の生活、今月一か月の出来事、今年一年間、また今までの人生を振り返ってみて、反省をする。それによって、今後の人生の指針が方向づけられるのです。

この反省を確実に行っているならば、親の教育が多少間違っていたとしても、また教育者の考え方が片寄っていたとしても、自分で自分を正すことができるはずなのです。今まで親から受けた教育、友達、そして社会での感化、経験、その中から正しい答えはいつでも引き出せます。

それには心の中での徹底した批判が必要です。すべての事柄を批判してみることこそ自己の確立、自己教育の原点でしょう。

「人の振り見て我が振り直せ」。自分を甘やかしてはなりません。親のため、妻や子供たちのため、世のため人のため、今日一日をどのように過ごしたか、という自分への批判が大切なのです。

今日一日を働いて悔いがない。それが真の人生です。働くとは「はたの人」つまり自分以外の人たちを楽にすることなのです。自分が自分以外の人たちのために働けば、自分以外の多くの人々は、自分のために働いてくれるのだということがわかります。

自分を教育する。自分が変われば家庭が、家族が変わる。家族が変われば地域社会が変わる。社会が変われば郷土白根が変わります。自分への教育。それは心の教育であり、また地域社会〝白根〟を変える力があります。

個性を知り、常に相手の立場を思いやり、自己批判、自己反省を積み重ねて、家族（家庭）や社会（地域）の活性化のために働く。そのような人間によってこそ、世の中は明るく美しく保たれるのではないでしょうか。

カリフォルニア大学教授　庭山君の霊よ安かれ

川口信夫さん（中央通二・石材業・57歳）

去る三月二十二日、中之口村新光寺で、大西新潟大学医学部長はじめ県の医学関係者多数を集めて、故庭山　元君の法要が盛大に行われました。

彼は五六ノ町、庭山　弘さんの弟として昭和三年に生まれ、白根小、現新潟高校、現新大医学部をトップで卒業。米国に留学して三十年、カリフォルニア大学の教授となって世界の庭山として雄飛しようとしていたやさき、白血病で五十七歳の人生を終えてしまいました。

昨年、帰国し、医学部の大講堂で医学生を前に講演したことは、新聞紙上に大々的に報じられたとおりです。彼はすでにアメリカの市民権を得て、未亡人と遺児二人はロサンゼルスに永住していますが、生前、死を予知した彼が父母の眠る新光寺に分骨を希望し、今回、未亡人の胸に抱かれて帰国した次第です。

五十年前、白根小学校でいっしょに勉強した同級生として、白根市はもちろんのこと、日本のためにもまことに惜しい人物をなくしたことを悼み、静かに庭山君のめい福を祈るものです。

ロサンゼルスの自宅で家族と（5年前）

市民文芸

俳句

娘一人の部屋へしのびしおぼろ月　玉木　長吉
どこまでも上れよ強く孫の凧　渡辺　勤
新緑や楓の紅が映えて見ゆ　針貝　静男
手拭に包みて帰る蕗のたう　真保　清三
つくほどに色をましくる草団子　須戸　義夫
木蓮の花咲く庭の暮れきれず　石田　豊実

川柳

極道の歯止めとなった父の遺書　野内熊太郎
優勝の実感賜杯が手に重い　早川　英男
丹精の菊ママゴトの皿に乗せ　山岡　フミ
商人の歯止めとなった盆と暮　吉川　彰
余韻なお幕間へ続く名演技　吉川　末吉
円高は歯止めを知らぬ昇り竜　米野　光雄
ギャンブルの戒めにする娘の涙　波辺　ミヨ
減反の歯止めに赤旗振る案山子　今井　七郎
誘惑の手に揺れている寡婦の城　今井　タエ
マスコミへ売れぬスターが媚を売る　織田　セツ
丹精へ答えて呉れぬ植木鉢　後藤マサノ
誕生の夢がふくらむ妊婦服　佐藤トミノ
流木の置床丹精込めた彩　佐藤　ヨキ
辛い点付けようがないダイアナ妃　高橋祐四雄
同居する息子を稀少価値と識り　竹石　甚五
便利だがカードの付けが追って来る　田中　成子
日の丸が歯止めにならぬ廃止線　田村　恒夫
おしゃべりな晴れ着値段を口にする　長井　徳市
磨く程小皺を見付け出す鏡　中村　尚治
辛口も飲んで女が自立する　西条　ムラ

短歌

代終えし田水に映る黒雲の重なる様に小波のたつ　中村　京

心と心のふれあい　「オアシス運動」

栗田ムラさん（下茨・主婦・52歳）

朝、登校途中の子供たちに会うと「おはようございます」と元気よくあいさつしてくれます。「はい、おはよう。車に気をつけてね」「はい、ありがとうございます」。

小学校低学年から高学年の子供たちが、仲よくいっしょに登校する姿を見ていると、いじめや自殺などは新聞、テレビだけの遠い出来事のように感じられます。横断歩道で車を止めると、急いで渡り、頭を下げていきます。

知らない他人の子供でも、お互いに声をかけ合い、悪い事、危ない事をしているときは、厳しく注意することも大事なことと思います。私たちの子育てのころは、そんなことはあたりまえのことでしたが、今の若いお母さんに「おっかないおばさんに怒られるからやめなさい」と、注意したことで悪者にされたこともあります。

オアシス運動という言葉をよく聞きます。おはよう（あいさつ）、ありがとう（感謝）、親切（やさしさ）、すみません（謙虚）。簡単なようでなかなか難しいことかもしれませんが、私もオアシス運動に心がけたいと思います。

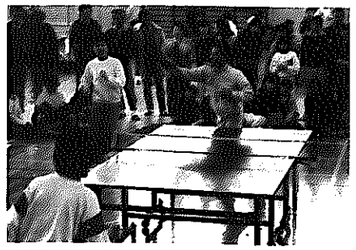
楽しかった地区卓球大会　交流の場として最適です

渡辺とし子さん（泉月町・会社員・37歳）

部落対抗のこの卓球大会に出て思ったことは、場所はとらないし、夫婦で仲よくできて、また、大勢の人たちと試合ができる、とても楽しいスポーツだということです。

この卓球大会が小林地区だけの大会でなく、白根市のスポーツとして、地区同士の大会ができるようになったら、農村部と町部のたとえ一部の人たちであっても、コミュニケーションができてよいのではと思いました。

これからも長続きしてほしい行事の一つです。



2月23日に行われた大会には350人が参加

町民運動会の後の親睦会で（昭和28年ころ）

私の思い出　昔のわが街

何事にも助け合える和があります

語る人
野内アイさん
（砂押2・61歳）

砂押第2町内に住んで45年たちます。

ある熟年の人の話では、私の家の周りに三菱の米倉庫が建ててあったそうです。戦後、一時は38世帯が住んでいました（61年5月1日現在＝13世帯）。

まだ白根市になっていないころ、町民運動会に参加するため、夕食後、狭い道路で二人三脚などを練習し、2位になって家で親睦会をしたこともありました。また、町内の人や倉庫の持ち主と協力して、夜7時から朝2時まで鐘を振り振り、交替で毎晩、火の用心に回り、家で茶飲み話に花が咲いたこともありました。

その後、町村合併となり、日本経済の発展とともに生活が豊かになったため、個人の持ち家が増え、住民が次から次へと減っていきました。今では、残された長家がさびしく建っています。私は、長い間御苦労様でしたと、つぶやきたい気持ちです。

豪雪のときでも、つきあいのあるなしにかかわらず、除雪などを助けてくれる人が多く、何事にも協力し合える町内の和があります。